

■垂井町（たるいちょう）

人口 26,838 人 面積 57.09 km²

【男女混合綱引】



垂井町は、岐阜県西部、濃尾平野の西端に位置し、中山道・美濃路が通る歴史と伝統が息づく自然あふれる街です。

春を迎えると伊富岐神楽を奉納する「伊吹祭」や大人顔負けの子供歌舞伎が見応えある「垂井曳軸（ひきやま）まつり」、神輿行列が南宮大社と旧宮・御旅神社を往復する「南宮大社 例大祭」など数々の祭りで活気づき、大勢の人で賑わいます。

また、本町はJRの駅を有し、東西南北への交通の便も良いなど地理的優位性があり、自然や歴史・文化が豊かであることなど、これからますます発展する可能性を秘めた町です。



○相川鯉のぼり一斉遊泳

毎年3月下旬から5月上旬は、約350匹の鯉のぼりが一斉に遊泳しており、県内外から多くの方にお越しいただいています。3月下旬の早い時季から行われている関係で、残雪がある伊吹山と、満開となる約200本のソメイヨシノを同時に写真に収めることができ、全国的に見ても非常に珍しい構図、またインスタ映えする写真が撮れるスポットです。

○表佐太鼓踊り

江戸時代初期に、美濃中山の水神さんに雨乞いをし、願いがかなったお礼に太鼓や鉦鼓を鳴らして、感謝の意を示したことが始まりとされます。現在は、若者の娯楽や鍛錬をかねた神事芸能として行われ、60kgもの大太鼓を腹に付け、音頭にあわせて踊りながら打つ様は勇壮で見応えがあります。毎年10月第1日曜に行われ、県無形民俗文化財に指定されています。



○垂井曳軸まつり

毎年5月2日から4日におこなわれる八重垣神社のお祭りで、漆塗りに蒔絵、彫刻金具を施した3輦の豪華な曳軸は有名で、県重要有形民俗文化財に指定されています。安永年間（1772～1780）に始まったとされる子供歌舞伎狂言が披露され、多くの観光客を集めています。